

第二條 本組合ハ小作農、小作兼自作農及日雇其ノ他本組合ノ承認シタルモノヲ以テ組織ス

第三條 本組合ハ宣言、綱領、主張ノ貫徹ヲ以テ目的トス

第二章 機關

第一 大會

第四條 大會ハ本組合ノ最高決議機關ニシテ大會代議員、評議員、會長、各部長、主事及會計ヲ以テ組織シ本組合ノ重要ナル事項一切ヲ審議ス

第五條 大會ハ毎年一回會長之ヲ招集シ前年選定セル場所ニ於テ開催ス

一 評議員會ニ於テ必要ト認メタル時ハ臨時大會ヲ開催スルコトヲ得

第六條 大會ノ代議員ハ聯合會ヲ選舉區トスルヲ原則トシ、其ノ選出方法ハ幹事會ニ於テ決定ス

第七條 大會ノ議長ハ大會ニ於テ之ヲ選舉ス

第八條 大會ハ大會代議員ノ三分ノ一以上ノ出席アルニ非ザレバ會議ヲ開ク事ヲ得ズ

第二 評議員會

第九條 評議員會ハ本組合ノ決議機關ニシテ會長、主事、評議員、各部長及會計ヲ以テ構成シ必要ニ應ジ幹事會之ヲ招集ス

第三 幹事會

第十條 幹事會ハ會長、主事、各部長及會計ヲ以テ構成シ組合ノ常務ヲ執行ス

第十一條 幹事會ハ必要ニ應ジ組織部、宣傳部、政治部、爭議部、法律部、出版部、教育部、産業部、青年部、婦人部、機關紙部、調査部等ノ部門ヲ設タルコトヲ得

第十二條 各部門ハ幹事會ノ統制ヲ受ケ部長一名、部員若干名ヲ以テ構成シ幹事會之ヲ任免ス

第十三條 部長ハ幹事會、常任幹事會ニ出席シ發言スルコトヲ得

第十四條 幹事會ハ顧問ヲ推薦スルコトヲ得

第十五條 幹事ハ評議員會ノ互選トス

第十六條 常任幹事會ハ會長、主事、會計及常任幹事ヲ以テ構成シ組合ノ緊急事項ヲ審議執行ス

第三章 役員

第十七條 本組合ハ會長、主事、會計各一名、會計監査二名、評議員、幹事、常任幹事各若干名ヲ置ク

第十八條 會長ハ大會ニ於テ選出シ本組合ヲ代表ス

第十九條 主事ハ大會ニ於テ選出シ本組合一切ノ事務ヲ管掌ス

第二十條 會計ハ大會ニ於テ選出シ本組合ノ會計事務ヲ管掌ス

第二十一條 會計監査ハ大會ニ於テ選出シ本組合ノ會計ヲ監査ス

第二十二條 評議員ハ大會ニ於テ選出ス但シ之ガ補充ノ場合ハ幹事會ニテ行フ事ヲ得

第二十三條 常任幹事ハ幹事會ノ互選トス

第二十四條 本組合役員ノ任期ハ一ケ年トス

第四章 組織

第一節 聯合會

第二十五條 聯合會ハ道府縣ヲ單位トシテ三支部三百名以上ニ達シタル場合ハ之ヲ組織スルモノトシ
幹事會ノ承認ヲ得ルヲ要ス

全國ヲ左ノ區劃ニ分チ各區劃ニ主任ヲ置ク

各主任ハ常任幹事中ヨリ選任ス

區劃左ノ如シ

九州、四國、中國、近畿、東海、關東第一區（東京、千葉、群馬、神奈川）、關東第二區（栃木、
埼玉、茨城）、甲信、北陸、東北、北海道、臺灣

第二節 支部

第二十六條 支部ハ町村又ハ字ヲ單位トシテ組合員二十名以上ヲ以テ組織ス

第二十七條 支部ヲ設立スル時ハ支部規約、組合員名簿及所定ノ組合費ヲ添へ聯合會ニ申出デ其ノ承
認ヲ得ルヲ要ス

第二十八條 支部ハ該地方ニ聯合會ナキ時ハ總本部直屬トス

第五章 會計

第二十九條 本組合ノ經費ハ組合員ノ負擔トシ組合員一名一ケ年十二錢トス

第三十條 本組合ノ豫算ノ決定、決算ノ承認ハ大會ニテ行フモノトス

第三十一條 本組合會計年度ハ二月一日ヨリ翌年一月三十一日迄トス

第六章 機關紙

第三十二條 本組合ハ本部ニ於テ機關紙ヲ發行ス

第三十三條 機關紙ノ經費ハ特別會計トス

第七章 罰則

第三十四條 本組合員ニシテ左ノ一ニ該當スル者ハ幹事會又ハ大會ニ於テ除名スルコトヲ得
一 組合ノ主義、綱領ニ違反シタルモノ
二 組合ノ面目ヲ汚損シタルモノ
三 組合ノ統制ヲ紊シタルモノ

第三十五條 本規約ハ大會ニ於テ出席代議員三分ノ二以上ノ賛成ヲ得ルニ非ザレバ修正變更スルコト

第八章 附則

第三十五條 本規約ハ大會ニ於テ出席代議員三分ノ二以上ノ賛成ヲ得ルニ非ザレバ修正變更スルコト

ヲ得ズ

(四) 日本農民組合總同盟

第一 沿革

昭和七年社會民衆黨第三次分裂ニ依リ日本國家社會黨組織サレントスルヤ從來社會民衆黨ヲ支持シ來レル日本農民組合ハ新黨支持ニ轉換スルニ至レリ。茲ニ於テ同組合中ニ於ケル社會民衆黨支持ノ地方支部(主トシテ合同前ノ日本農民組合總同盟)ハ脱退シテ昭和七年四月二十九日日本農民組合總同盟ヲ結成シ今日ニ及ベリ。

第二 現勢

- 一 設立年月日 昭和七年四月二十九日
- 二 事務所々在地 東京市京橋區築地四ノ四 中屋ビル内
- 三 支部組合數及組合員數
- 四 府縣聯合會數
- 五 支部聯合會數
- 六 組合員數

一、三、二一

- 顧問 問安部 磯雄
- 會長 鈴木 文治
- 副會長 片山 哲
- 主事兼會計 松永 義雄
- 會計監督 和田 操
- 組織部長 伊藤 新藏
- 宣傳部長 小山 壽夫
- 爭議部長 由良 多一郎
- 法律部長 佐藤 吉熊
- 調查部長 西本 喬
- 產業部長 桑島 辰平
- 青年部長 井堀 繁雄
- 婦人部長 片山 哲
- 機關紙部長 荒川 鶴松
- 國際部長 山崎 宏

教育部長 木村 盛

五分 布

一府九縣ニ及ビ、其ノ内支部組合數ノ多キ地方ハ神奈川、埼玉、長野ノ諸縣ナリ。

六 機關紙 ナシ（其ノ後農村運動）

七 政黨支持關係

社會大衆黨ヲ支持ス。

第三 宣言、綱領、スローガン、主張及規約

一 宣言

現下ニ於ケル資本主義經濟發展ノ最後ノ段階タル金融資本萬能ノ機構ハ内部矛盾ヲ抱懷ノ結果地方農村銀行ハ頻々トシテ破綻ヲ白日ノ下ニ曝露シツ、アル。都市ニ於ケル金融資本機關ハ蔽フベカラザル内部缺陷ヲ秘シツ欺瞞的手段ヲ以テ只管其ノ安定ニ必死ノ努力ヲ傾ケテキル。

見ヨ！ 不動産資金化ノモガキハ夫デアリ、生絲補償ノ増額ハ夫デアル。然ルニ農産物及繭價ハ不當ニ下落シテ農村ハ資金ノ枯渴ヲ來シ、耕地ハ收入ヲ激減シテ借金ノ重壓ヲ蒙リ、農村恐慌ノ嵐ノ前ニ耕作農民階級ハ靄ノ如ク慄ヘ戦イテキル。耕作農民ガ眞ニ固キ團結ニ依ツテ立ツベキ秋ガ來タ。結束シテ大衆ノ威力ヲ發揮スベキ絶好ノ機會

ガ來タ。然ルニ農民陣營ノ一部ニ自己ノカラ輕視シ、他カラ盲信シテ「ファツシズム」の野心ノ傀儡トナリ、輕卒ニモ自ラ暴力團化セントスル傾向アルハ斷ジテ我等ノ排撃スル處デアル。而カモ農民組合ガ經濟的大衆行動ヲ拋棄シテ、政治的行動ニ狂奔シ、一舉ニシテ事ヲ解決セントスルニ至ツテハ實ニ農民解放運動ノ邪道ニ陥ルモノデアルト言ハナケレバナラス。

我等農民階級ハ我等ノ權利ト利益トノ上ニ立ダナケレバナラス。實ニ地主ニ對スル小作闘争ヲ行フ許リデナク、都市工業大資本家及大金融資本家ニ向ツテ權利ノ奪還ヲ企テルコトガ絶對ノ必要事デアル。彼等「ファツシズム」ノ一黨ハ陽ニ農村救済ノ美名ヲ掲ゲ、實ハ工業資本家ニ奉仕スル欺瞞行爲ヲ敢ヘテシテ居ルノデアアル。

我等農民ハ小作農タルト自作農タルトヲ問ハズ自己ノ力ニ自信ヲ持ツベキダ。資本主義ハ既ニ没落ノ途ヲ走ツテキル。我等ハ我等ノ力ヲ大衆ノ威力ニ凝結シ、農民組合ノ自力の大衆行動ニ依ツテ容易ニ生活線ヲ乘リ越エ、經濟線ヲ突破スルコトガ出來ル。我等ハ茲ニ日本農民組合總同盟ノ結成ニ當リ、我等ノ使命ノ重大ナルヲ痛感シ、勇猛果敢ニ農民闘争ヲ開始シ、我等ノ目的達成ノ爲メ死ヲ以テセムコトヲ誓フモノデアアル。

右宣言ス。

昭和七年四月二十九日

日本農民組合總同盟結成大會

二 綱 領

- 一 我等ハ團結ノ力ニヨリ農民生活權ノ確立ヲ期ス
- 一 我等ハ耕作農民本位ニ我等ノ實力ヲ集中シ我國農村ノ解放ヲ期ス
- 一 我等ハ農民組合ノ實力ニ依リ新社會ノ建設ヲ期ス
- 三 スローガン
 - 一 窮乏農民ニ農業資金ヲ與ヘヨ!
 - 二 農民ヲ壓殺スル欺瞞的農村政策ノ粉碎!
 - 三 自主的農民本位ノ組合死守擴大!
 - 四 都市資本農村侵蝕排撃!
 - 五 農村負債十ヶ年支拂猶豫!
 - 六 働ク農民ニ土地支配權ヲ與ヘヨ!
- 四 主張
 - (一) 立法
 - 一 完全小作法ノ制定
 - 二 耕作農民本位ノ農產物災害國家補償法ノ制定

- 三 養蠶農民ノ損失補償法制定
- 四 米專賣法ノ制定
- 五 耕作農民ノ借金支拂猶豫法ノ制定
- 六 農產物ト工業生産物ノ價格均衡法ノ制定
- 七 立毛差押及立入禁止ノ執行法廢止
- 八 農產物、農具、家屋差押禁止法ノ制定
- 九 農民運動暴壓法令ノ廢止
- 一〇 耕作農民生活保障ノ調停法制定
- 一一 耕作農民ノ產業組合許可
 - (二) 經濟及制度
 - 一 小作料ノ減免
 - 二 肥料其ノ他農業資金ノ無擔保融通
 - 三 家賃及電燈料ノ値下
 - 四 組合製絲ノ普及
 - 五 肥料、農具ノ國家管理ト無料配布
 - 六 小學兒童ノ學用品供給、食費ノ國家負擔

- 七 醫療、產院、託兒所ノ公營
 - 八 失業救濟事業ノ徹底的實施
 - 九 農產物鐵道運賃ノ引下
 - 一〇 青年訓練所ノ廢止
 - 一一 知事ノ公選
 - 一二 農產物貿易ノ國家管理
- (三) 稅 金
- 一 戶數割ノ廢止
 - 二 地租委讓
 - 三 耕作農民負擔ノ雜種稅廢止
 - 四 耕作農民負擔ノ家屋稅廢止
 - 五 自作農稅ノ廢止(特別地租稅ノ廢止)
 - 六 金融資本金稅ノ設定
 - 七 大地主課稅ノ設定
 - 八 肥料關稅ノ撤廢
 - 九 砂糖、煙草、其ノ他消費稅ノ撤廢

五 規 約

第一章 總 則

- 第一條 本組合ハ日本農民組合總同盟ト稱ス
- 第二條 本組合ハ我國ニ於ケル小作農、小作兼自作農及日雇其ノ他本組合ノ承認シタルモノニシテ組合ノ綱領ニ賛同シ規約ヲ遵守スルモノヲ以テ組織ス
- 第三條 本組合ハ同盟會、聯合會及支部ヲ以テ構成ス
- 第四條 本組合ハ本部ヲ東京ニ置ク
- 第二章 目 的
- 第五條 本組合ハ耕作農民ノ利益ヲ擁護シ宣言、綱領ノ貫徹ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第三章 機 關
- 第一 大 會
- 第六條 大會ハ本組合最高ノ決議機關ニシテ大會代議員、中央委員、會長、副會長、各部長、主事、會計監督及會計ヲ以テ組織シ本組合ノ重要ナル事項一切ヲ審議ス
- 第七條 大會ハ毎年一回會長之ヲ召集ス

中央執行委員會ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時大會ヲ開催スルコトヲ得

第八條 大會ノ代議員ハ同盟會、聯合會又ハ支部ヲ選舉區トシ、其ノ選出方法ハ中央執行委員會ニ於テ決定ス

第九條 大會ノ議長ハ大會ニ於テ之ヲ選舉ス

第十條 大會ハ大會代議員ノ三分ノ一以上ノ出席アルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

第二 中央委員會

第十一條 中央委員會ハ會長、副會長、中央委員、主事、會計監督及會計ヲ以テ構成スル決議機關トス但シ半數以上出席スルニ非ザレバ決議スルコトヲ得ズ

第十二條 中央委員ハ大會ニ於テ選舉シ任期ハ一ケ年トス

但シ再選ヲ妨ゲズ

第十三條 中央委員會ハ必要ニ應ジ會長之ヲ召集ス三分ノ一以上ノ中央委員ヨリ要求アリタル時ハ會長ハ直ニ之ヲ召集スベシ

第十四條 中央委員構成員ニシテ缺員ヲ生ジタル場合ハ中央委員會ニ於テ補缺スルコトヲ得

第三 本部役員

第十五條 中央執行委員會ハ會長、副會長、中央執行委員、會計監督、主事及會計ヲ以テ構成スル執

行機關ニシテ本組合ヲ代表ス

第十六條 中央執行委員會ハ必要ニ應ジ左ノ機關ヲ置クコトヲ得

- 調査部
- 出版部
- 國際部
- 法律部
- 教育部
- 産業部
- 組織部
- 爭議部
- 宣傳部
- 婦人部
- 青年部
- 機關紙部

第十七條 中央執行委員、會長、副會長、會計監督、主事及會計ハ中央委員會ノ互選トス

第十八條 各部ニハ部長一名、部員若干名ヲ置ク、部長及部員ハ中央執行委員會ニ於テ之ヲ任免ス

第十九條 中央執行委員會ハ顧問若干名ヲ推薦スルコトヲ得

第四章 組織

第二十條 同盟會ハ聯合會ヲ以テ組織シ中央執行委員會ノ承認ヲ得ルヲ要ス

第二十一條 支部ハ組合員十名以上ヲ以テ組織スルモノトス

第二十二條 聯合會ハ各縣ニ於テ三支部、三百名以上ニ達シタル時之ヲ組織スルコトヲ得

第二十三條 同盟會、聯合會及支部ノ規約ハ中央執行委員會ニ届出デ其ノ承認ヲ要ス

第五章 會計

第二十四條 本組合ノ經費ハ組合員ノ負擔トシ聯合會又ハ支部ヨリ徴收ス

一旦納入シタル組合費ハ之ヲ返サズ

第二十五條 本組合ノ經費豫算ハ中央執行委員會ニ於テ原案ヲ作成シ大會ニ提出シ其ノ協議ヲ經ル事ヲ要ス

第二十六條 本組合ノ決算ハ大會ノ承認ヲ得ルヲ要ス

第二十七條 本組合會計年度ハ十月一日ヨリ翌年九月三十日迄トス

第二十八條 本組合費ハ組合員一員ニツキ年額金五十錢トス

第六章 罰則

第二十九條 本組合員ニシテ左ノ一ニ該當スルモノハ中央執行委員會又ハ大會ニ於テ之ヲ除名スルコトヲ得

一 組合ノ主義、綱領ニ違反シタルモノ

二 組合ノ面目ヲ汚損シタルモノ

三 組合ノ統制ヲ紊シタルモノ

第七章 附則

第三十條 本規約及綱領ハ大會ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ賛成ヲ得ルニ非ザレバ修正變更スルコトヲ得ズ

(五) 社會大衆黨

第一 沿革

本邦ニ於テ最初ノ全國的無產政黨トシテ設立セラレタルハ「農民労働黨」(設立、大、一四、一一、一)ナリシガ、直ニ解散ヲ命ゼラレタルヲ以テ、其ノ一派ハ大正十五年三月五日「労働農民黨」ヲ結成セリ。然ルニ之ヲ支持セル日本労働總同盟ハ日本農民組合トノ軋轢ノ結果之ガ支持ヲ取消シ別ニ社會民衆黨ヲ結成セリ。一方労働農民黨ハ其ノ後、離合、集散、解散、設立等幾多ノ變遷ヲ爲シ昭和四年十一月三日ニ労働黨及昭和五年七月二十日全國大衆黨ヲ設立シ、更ニ此ノ兩者ハ合同シテ昭和六年七月五日全國労働大衆黨ヲ結成セリ。然ルニ昭和六年九月勃發セル滿洲事變ヲ契機トシテ國家社會主義ヲ唱フルモノヲ生ジ、社會民衆黨内ノ此ノ一派ハ脱退シテ「日本國家社會黨」(設立、昭、七、五、二九)ヲ作り、殘留セル社會民衆黨ハ全國労働大衆黨ト共ニ單一強力政黨ノ結成ヲ目的トシテ合同シ、昭和七年七月二十四日「社會大衆黨」ヲ創立シテ今日ニ及ベリ。

第二 現勢

- 一 設立年月日 昭和七年七月二十四日
- 二 事務所々在地 東京市芝區南佐久間町一ノ五五
- 三 役員

顧問 高野岩三郎 杉山元治郎 鈴木文治

濱田國太郎 山崎今朝彌 馬場恒吾

賀川豊彦 今井嘉幸

會計監査 吉川守國 和田操

中央執行委員長 安部磯雄

常任中央執行委員 片山哲 河上丈太郎 龜井貫一郎

松永義雄 三輪壽壯

政策審議會 安部磯雄(委員長) 河野密(主任) 阿部溫知

吉川末次郎 須永好 齋藤健一

山川宗彬 菊川忠雄 爲藤五郎

宮本官治 稻村隆一 田萬清臣

川村保太郎 西尾末廣 鈴木倉吉

山崎劍二 野溝勝

書記長兼會計 麻生久

書記局

總務部長 平野學 組織部長 淺沼稻次郎

宣傳部長 小山壽夫 連絡部長 田所輝明

機關紙部長 松本淳三 青年部長 佐藤吉熊

教育出版部長 渡邊年之助 婦人部長外一名未定

委員會

勞働委員長 片山哲 主任 渡邊年之助

市民委員長 河上丈太郎 主任 阿部茂夫

議會選舉委員長 龜井貫一郎 主任 松本淳三

財務委員長 松永義雄 主任 高橋長太郎

農村委員長 三輪壽壯 主任 角田藤三郎

四分 布

東京、大阪、兵庫、福岡、愛知、長野、京都、宮城、新潟、栃木、其ノ他

機關紙 社會大衆新聞 社會新聞(準)

六 主要支持團體

官業勞働總同盟、日本海員組合、日本勞働總同盟、全國勞働組合同盟、日本農民組合同盟、全國

農民組合有志、無産婦人同盟等

第三 宣言、綱領、建設大綱、政策及黨則

六 主要方針綱領

社會大衆黨昭和八年度大會ハ、黨ノ結集ヲ新ニシ、現實的闘争ノ方針ヲ採擇シ、以テ風雲急ナル「明日」ニ備ヘンコトヲ期シタ。曰ク

對内的ニハ

- 一 公式的ナル觀念及運動ヲ清算シ
- 二 人的結合ヲ樞軸トシテ黨ノ結集ヲ強メ
- 三 勞農組合トノ連繫ヲ固クシ
- 四 組織ヲ簡易化シテ明斷ト應急ニ備ヘ

對外的ニハ

- 一 具體的建設政策ヲ提ゲテ革新ノ趨向ヲ明示シ
- 二 「非常時局」露呈サレタ混亂ト彷徨ニ據處ヲ與ヘ
- 三 窮乏ニ喘グ民衆ト共ニ其ノ「今日」ノタメニ戦ヒ
- 四 平和工作ニ依ツテ世界戦争ノ危機ヲ防止セン

トスルモノデアル。一切ノ政治經濟政策ヲ「社會化」ニ集約シ、以テ資本主義ノ打倒ト其ノ後ニ來ルモノニ對スル國民大衆ノ動向ヲ指導セントスルハ、政策具體化ノ一飛躍デアル。

黨ノ組織ヲ横ニ擴大スルト共ニ、人的結合ヲ通ジテ縦ニ集結強化セントスルハ、闘争弾力化ノ一進展デアル。

非常時遂ニ解消セズ。却ツテ混亂ハ恒久化セントス。社會革新ノタメノ「十年闘争」ハ正ニ今日ヲ以テ發足ス。全黨員ヨ、確信ヲ以テ前途ヲ望メ！ 歴史進化ノ必然ヲ信ジテ莞爾トシテ此ノ解放戦ニ參ジョ！

右宣言ス。

昭和八年十二月十日

社會大衆黨全國大會

二 綱 領

- 一 我黨ハ勞働者、農民、一般勤勞大衆ノ生活擁護ノ爲ニ戦フ
- 二 我黨ハ資本主義ヲ打破シ無産階級ノ解放ヲ期ス

三 建設大綱

- 一 重要産業竝ニ金融機關ノ國有管理、勞働者ノ生産自治、生産者ノ生活ヲ確保スル勞働制度ノ建設、

- 一 社會保險制度ノ完成
- 二 土地ノ國有、耕作權ヲ確保スル土地制度ノ建設、農業經營ノ自主的協同組合化、農民生産ノ機械化、重要農産物ノ國家統制
- 三 經濟議會ノ建設、公費勞學教育制ノ建設、住宅竝ニ醫療機關ノ公營
- 四 工業農業ノ融合、都市農村ノ均衡化
- 五 世界民族ノ平等、世界平和ノ建設

四 政 策

一般政策

- 一 (イ) 警察政治ノ廢止、地方自治徹底
- (ロ) 徹底普選ノ獲得、選舉公營
- (ハ) 無産階級彈壓諸法令ノ撤廢、官吏公務員ノ職權濫用、收賄ノ重刑
- (イ) 高率累進財產稅ノ設定、相續稅ノ高率累進賦課、獨占資本稅、土地增價稅ノ設定
- (ロ) 消費諸稅ノ廢止、所得二千圓未滿ノ者ノ一切ノ課稅免除
- (ハ) 鐵道、郵電、煙草等官業獨占價格ノ引下ゲ
- (イ) 軍備縮少

- (ロ) 資本主義的帝國主義侵略政策ノ廢絶
- (ハ) 世界關稅障壁ノ撤廢
- 四 (イ) 兵士ノ待遇改善
- (ロ) 入營、戰傷死、廢疾兵士竝ニ其ノ家族生活ノ國家保證
- (ハ) 一般養老年金制、寡婦孤兒年金制ノ確立
- (ニ) 兒童學用品、食費ノ公給
- (イ) 封建的賤視觀念ノ打破
- (ロ) 華族制度ノ廢止

勞働政策

- 一 七時間勞働制、生活賃銀制ノ確立、團結權、罷業權ヲ確認スル自主的勞働組合法ノ制定
- 二 國家負擔ニヨル失業手當、失業保險制度ノ確立、職業紹介機關ノ擴充竝ニ勞働組管理、廢疾保險法ノ制定、健康保險法ノ改正
- 三 少年及婦人ノ夜間勞働、危險作業ノ禁止、勞働婦人ノ母性保護
- 四 俸給生活者法、商店從業員法竝ニ漁民法ノ制定
- 五 徒弟制度及飯場制度ノ廢止

農村政策

- 一 耕作權ヲ強化スル小作法ノ制定、立入禁止、土地取上ノ禁止、開墾開拓、荒蕪地處理強制法ノ制定、官有ノ林野、河川、湖沼等ノ開放
- 二 肥料、種子、農業機具ノ國營配給、農民ノタメノ農業信用銀行ノ設置及農産資金無擔保貸付
- 三 凶作、達蠶ニ對スル農民生活國家保證、價格ニヨル農民損失ノ國家補償
- 四 遊食地主高率課税、勤勞農民負擔税ノ減免
- 五 勞働農民ノ自主的農村自治制ノ建設

五 黨 則

第一章 總 則

- 第一條 本黨ハ社會大衆黨ト稱シ本部ヲ東京ニ置ク
- 第二條 本黨ハ綱領、建設大綱、政策及宣言決議ヲ實現スルコトヲ以テ目的トス
- 第三條 本黨ハ黨則ヲ遵守スル個人ヲ以テ構成ス
- 第二章 黨員ノ權限及義務
- 第四條 本黨員ハ左ノ權限ヲ有ス
 - 一 黨規ノ定ムル所ニ從ヒ黨ノ集會ニ出席シ討議々決ニ加ハルコトヲ得
 - 二 黨規ノ定ムル所ニ依リ役員ノ選舉權並ニ被選舉權ヲ有ス

第五條 本黨員ハ左ノ義務ヲ負フモノトス

- 一 所定ノ黨費用ノ負擔
- 二 故ナクシテ役員ヲ辭任スルコトヲ得ズ
- 三 黨ノ決定ニ服スルコト

第三章 機關

一 大 會

- 第六條 大會ハ最高決議機關ニシテ大會代議員及本部役員ヲ以テ構成ス
- 第七條 大會ハ毎年一回中央執行委員會之ヲ召集ス
但シ中央執行委員會ハ支部聯合會二分ノ一以上ノ要求アリタルトキ又ハ全國委員會ガ必要ヲ認メタル時ハ臨時大會ヲ召集スルコトヲ要ス
- 第八條 大會ノ議長、副議長ハ大會之ヲ選出ス
- 第九條 大會ノ代議員ハ支部聯合會ヨリ選出スルモノトシ、其ノ選出比率ハ別表ノ定ムル所ニヨル
但シ中央執行委員會ノ承認アリタルトキハ支部ヨリ選出スルコトヲ得
- 第十條 大會ハ代議員定數二分ノ一以上ノ出席ヲ以テ成立ス

第十一條 大會ノ議事ハ出席議員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決定ス

但シ中央執行委員會、全國委員會又ハ大會ノ指定シタル事項ニ付テハ大會二ヶ月前ノ黨費完納黨員數ニ比例スル地區代表投票ニ依テ之ヲ決ス

大會議事規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 大會ハ中央執行委員長一名、中央執行委員若干名、書記長一名、會計一名、會計監査若干名、全國委員若干名、顧問若干名ヲ選出ス

但シ中央執行委員數ハ全國委員定數ノ半数ヲ超ユルヲ得ズ、全國委員ノ選任ハ黨費完納黨員數ニ比例スル選舉比率ニ依リ支部聯合會ノ推薦及前中央執行委員會ノ推薦ニ基ク、其ノ比率ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

二 全國委員會

第十三條 全國委員會ハ大會ヨリ次期大會ニ至ル間ノ決議機關ニシテ其ノ決議事項ニツイテハ大會ニ責任ヲ負フモノトス

第十四條 全國委員會ハ全國委員及本部役員ヲ以テ構成ス

但シ本部役員ハ全國委員會ニ於テ全國委員ト同一資格ヲ有ス

第十五條 全國委員會ハ年三回以上中央執行委員會之ヲ召集ス

但シ中央執行委員會ハ全國委員三分ノ一以上ノ要求アリタルトキハ全國委員會之ヲ召集ス

第十六條 全國委員會ハ半数以上ノ出席ヲ以テ成立ス

第十七條 全國委員ノ任期ヲ一ケ年トス

第十八條 全國委員會ハ全國委員及中央執行委員ノ缺員ヲ補選スルコトヲ得

但シ全國委員會ハ支部聯合會ノ要求ニ基キ該地區ノ全國委員ヲ更任スルコトヲ得

第十九條 中央執行委員會ハ執行機關ニシテ黨ヲ代表シ大會竝ニ全國委員會ニ對シ責任ヲ負フモノトス

第二十條 中央執行委員會ハ中央執行委員長、中央執行委員、書記長、會計、會計監査ヲ以テ構成シ中央執行委員長之ヲ召集ス

第二十一條 中央執行委員會ハ左ノ部門ヲ置ク

- 一 組織部、宣傳部、教育部、機關紙部、青年部、婦人部、事業部、選舉部、議會部、國際部
- 一 財務委員會、政策委員會、勞働委員會、農村委員會、市民委員會

第二十二條 各種部門ハ中央執行委員會ノ統制ヲ受ケ會長、部長、部員、委員ヲ以テ構成シ中央執行委員會之ヲ任免ス、部長、會長ハ常任中央執行委員ヲ以テ之ニ充ツ

第二十三條 中央執行委員會ハ書記長ノ事務ヲ補助セシムルタメ書記局ヲ置ク、書記局ハ書記長、會計、常任中央執行委員若干名及書記ヲ以テ構成ス

第二十四條 中央執行委員會ハ常務執行ノタメ常任執行委員若干名ヲ互選ス
第二十五條 常任執行委員會ハ中央執行委員長、常任中央執行委員、書記長、會計ヲ以テ構成シ、中央執行委員長之ヲ召集ス

第二十六條 常任執行委員會ハ黨ノ事務ヲ執行シ中央執行委員會ニ責任ヲ負フモノトス
但シ常任執行委員會ノ執リタル緊急處置ハ次期中央執行委員會ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第二十七條 顧問ハ顧問會ヲ構成シ中央執行委員會ノ諮問ニ應ジ又ハ黨各機關ニ意見ヲ提出スルコトヲ得
第二十八條 本部ニ左ノ役員ヲ置ク

一 中央執行委員長 一名
一 中央執行委員 若干名

一 書記 一名

一 會計 一名

一 監査 若干名

第二十九條 中央執行委員長ハ中央執行委員會ヲ代表シ黨務ヲ統轄ス

第三十條 書記長ハ中央執行委員長ヲ補佐シ黨務ヲ處理ス

第三十一條 會計ハ黨ノ會計ヲ處理ス、會計監査ハ黨會計ヲ監督ス

第三十二條 役員ノ任期ハ一ケ年トス

但シ中央執行委員ハ半數ノ重任ヲ許サズ

第五章 組織

一 支部

第三十三條 支部ハ郡、市（大都市ハ區）又ハ之ニ準ズル地域ニ於テ黨員五十名以上ヲ以テ組織ス
但シ支部ハ其ノ地域内ニ於テ工場班、地域班、部落班ヲ組織スルコトヲ得

第三十四條 支部ハ其ノ設立ニ當リテハ黨員名簿、役員住所氏名及支部規約ニ本部費一ケ年分ヲ添ヘテ支部聯合會ヲ經テ（聯合會ナキ地域ハ直接）中央執行委員會ニ提出承認ヲ得ルコトヲ要ス
支部規約ハ別ニ定ムル支部規約準則ニ依ルコトヲ要ス

第三十五條 支部ハ必要ニ應ジ所屬支部聯合會ノ承認ヲ得テ他支部トノ間ニ支部協議會ヲ設クルコトヲ得

二 支部聯合會

第三十六條 同一府縣内ニ二個以上ノ支部アル時ハ支部聯合會ヲ組織スルコトヲ要ス

第三十七條 支部聯合會ハ所屬支部、役員住所氏名及事務所ヲ中央執行委員會ニ届出デ其ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

支部聯合會規約ハ別ニ定ムル所ノ支部聯合會規約準則ニ依ルコトヲ要ス

第三十八條 近接府縣ノ支部聯合會ハ相互ノ連絡ノタメ中央執行委員會ノ承認ヲ經テ地方協議會ヲ置クコトヲ得

三 支持團體

第三十九條 左記各項ニ該當スル團體ニシテ中央執行委員會ノ承認シタルモノヲ黨支持團體トス

(一) 政治的主張ガ我黨ノ綱領、政策ニ牴觸セザルモノ

(二) 執行機關構成員ノ過半数ガ黨籍ヲ有スルモノ

(三) 正式機關ニ於テ黨支持ヲ決定シタルモノ

但シ構成員一千名以上ノ産業別全國聯合體ハ直接本部ト、ソレニ充タザル團體ハ支部聯合會又

ハ支部ト支持關係ヲ結ブモノトス

第四十條 支持團體ハ一定ノ黨維持費ヲ負擔スルモノトス

其ノ比率ハ別ニ之ヲ定ム

第四十一條 支持團體ハ別ニ定ムル規則ニヨリ黨大會ノ承認ヲ得テ全國委員、中央執行委員ヲ選出ス

ルモノトス

第六十條 第六十條 第六十條

第四十二條 黨本部費ハ黨員一名ニ付年額五十錢トス

支部ノ納入スベキ本部費ハ年額金二十五圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第四十三條 黨費ハ支部之ヲ取纏メテ本部ニ納入スルモノトス

第四十四條 聯合會費ハ支部聯合會、支部費ハ支部之ヲ定ム

但シ本部費ヲ含メテ年額二圓四十錢ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十五條 中央執行委員ハ月額金二圓、全國委員ハ月額金一圓ヲ黨維持費トシテ本部ニ納入スベキ

モノトス、前項ノ義務ヲ六ヶ月ニ亙リ履行セザルトキハ役員權ヲ停止スルコトアルベシ

第四十六條 黨員及支部ハ毎年十月一日ヨリ十一月末日迄ニ當該年度分ノ黨費ヲ前納スルコトヲ要ス

第四十七條 黨ノ豫算及決算ハ大會ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第四十八條 會計年度ハ毎年十月一日ヨリ翌年九月迄トス

會計細則ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 議 員

第四十九條 本黨ニ所屬スル議員ハ別ニ定ムル議員行動方針書ヲ遵守スベキモノトス

第五十條 議員統制權ノ所在ヲ左ノ如ク定ム

(一) 衆議院議員ハ黨本部

(二) 道府縣會議員ハ支部聯合會

(三) 市町村區會議員ハ支部

但シ東京、大阪、京都、名古屋、神戸及横濱市會議員ハ各支部聯合會ノ統制ヲ受ク

第五十一條 各種議員ハ其ノ受クル歳費、手當等ノ一割以上ヲ統制權所在ノ黨部ニ納付スルモノトス

第五十二條 各種議員ハ其ノ統制權所在ノ地域ニ於ケル同種議員ヲ以テ議員團ヲ組織シ議員團ノ意見

ヲ當該機關ニ提出スルコトヲ得

第八章 統 制

第五十三條 黨員ニシテ左ノ一ニ該當スルモノハ除名又ハ役員權ノ停止ヲナス

(一) 黨ノ黨規ニ違反シタル者

(二) 黨ノ面目ヲ汚損シタル者

(三) 黨費ヲ納メザル者

(四) 議員行動方針書ニ違背シタル者

第五十四條 大會、全國委員會及中央執行委員會ハ黨員ヲ除名スルコトヲ得

但シ中央執行委員會ハ其ノ行ヒタル除名處分ニツキ次期全國委員會ニ報告シテ承認ヲ經ルコトヲ要

ス

第五十五條 支部又ハ支部聯合會ハ其ノ所屬スル黨員ニシテ前條各號ニ該當スルモノアルトキハ中央

執行委員會ニ對シ除名申請ヲナスコトヲ得

第九章 附 則

第五十六條 黨ノ綱領及黨則ハ大會ニ於テ地區代表投票ニ依ルニ非ザレバ變更スルコトヲ得ズ

第五十七條 本黨則ハ昭和七年七月二十四日ヨリ施行ス

(六) 皇 道 會

第一六沿ニテ日本國土擴張會、支那支隊會、南洋支隊會、南洋支隊會、南洋支隊會

時弊ニ痛憤シ、非常時打開、國難匡救ノタメニ蹶起セル在郷軍人等ハ昭和七年夏頃以降準備委員ヲ

舉ゲテ團結運動ヲ開始シ來レルガ、其ノ後日本農民組合トノ提携成ルヤ之ニ力ヲ得テ遂ニ昭和八年四

月五日兵農一丸トセル政治結社トシテ本會ヲ設立スルニ至レリ。因ニ日本農民組合ハ從來日本國家社會黨ヲ支持シ來リシニモ拘ラズ、昭和八年四月五日更ニ本會ヲモ支持スルコトナリシガ、同年六月二十四日日本國家社會黨ノ支持ヲ取消シ、皇道會ヲ積極的ニ支持スルコトナレリ。

第一 設立年月日 昭和八年四月五日

第二 事務所所在地 東京市芝區琴平町二 虎ノ門會館

三 役員會員

- 總裁 陸軍中將 等々力 森藏
- 副總裁 海軍中將 山下 巍八郎
- 陸軍少將 黒澤 圭一郎
- 陸軍少將 富家 政市
- 海軍大佐 小島 錦一郎
- 社本 弟三 相田 信吉
- 塚越 照 山崎 仁而
- 平野 力三 瀧澤 操六
- 島 中雄三 市川 節太郎
- 高橋 時吉 河田 弘
- 北山 亥四三 鍋倉 一
- 守田 貞記 田 宏
- 中村 中郎 奥野 小太郎
- 恒次 東洋雄

四 分會 北海道、山形、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、新潟、富山、山梨、長野、京都、大阪、福岡等

五 機關紙 皇道(月刊雜誌)、皇道新聞

六 支持團體 日本農民組合

第三 創立宣言、綱領、政策及會則

皇統三千年ノ光輝アル歴史ヲ有スル日本ノ現狀ハ今ヤ未曾有ノ危機ニ直面セリ。即チ國民ノ生活ハ益々窮迫シ、産業ハ停廢シテ勤勞大衆ハ餓死線上ニ彷徨シ、思想ハ愈々惡化シテ極右極左共ニ跳梁シ

國民道德ハ弛緩シテ輕佻浮華ノ風日ニ盛トナリ、列強ハ名ヲ國際平和ニ藉リテ帝國ノ正當ナル權益ヲ抑壓セントス。此ノ如クンバ皇國ノ前途爲ニ殆ク、吾人ノ痛憤惜ク能ハザル所ナリ。惟フニ事態ノ茲ニ至レル由テ來ル所遠シト雖モ、要スルニ明治以降歐米ノ個人主義及階級鬭爭の思想漸次我國ニ浸潤シ、日本ノ傳統タル皇道精神ヲ汚瀆シテ、毫モ國家ノ興隆發展ヲ念トセズ、或ハ私利私慾ヲ追求シテ更ニ國民利福ヲ顧ミズ、或ハ思想ノ動搖ニ昏迷シテ其ノ歸趨ニ惑ヒ、不正不義ノ徒其ノ間隙ニ乘ジテ權勢利福ヲ壟斷シ、至誠愛國ノ士ハ屏息シテ其ノ志ヲ伸ブルノ餘地ナキニ至リタルコト蓋シ其ノ最大原因タラズンバアラズ。

茲ニ於テカ吾人ハ座視スルニ忍ビズ、奮然蹶起シテ時弊ヲ肅正シ、國運ヲ恢弘シテ聊カ君國ニ報ズル所アラントス。吾人ハ須ラク黨閥ト財閥トノ野合的勢力ヲ打倒シ、階級鬭爭ヲ根絶シテ秩序ト安寧トヲ確保シ、皇道精神ヲ振興シテ道德及理智ヲ涵養シ、國防ヲ充實シテ列強ノ壓迫ニ對抗シ、國際正義ヲ確立シテ之ヲ四海ニ宣布セザルベカラズ。此ノ如クシテ初メテ内外ノ國難ヲ匡救シ、國體ノ精華ヲ發揚スルコトヲ得ベキナリ。

吾人ハ如上ノ目的ヲ貫徹スルニ當リ、常ニ公明正大ナル心事ト正々堂々タル方法トヲ堅持セントスルモノニシテ、近時世上ニ頻發セル陰謀暴力其ノ他非合法的手段ノ如キハ斷ジテ採ラザル所ナリ。吾人ハ帝國臣民トシテ當然享有スル一切ノ權利ヲ活用シ、吾人ト志ヲ同ジクスル憂國慨世ノ諸士ト共ニ

精神一到何事カ成ラザランノ意氣ヲ以テ勇往邁進センコトヲ期ス。

二 綱 領

皇道政治ヲ徹底シ以テ金匱無缺ナル我が國體ノ精華ヲ發揮スルヲ主眼トス

- 一 既成政黨ノ積弊ヲ打破シ、以テ公明ナル政治ノ確立ヲ期ス
- 二 資本主義經濟機構ヲ改廢シ、國家統制經濟ノ實現ヲ期ス
- 三 國民道德ノ振興ヲ圖リ、以テ綱紀ノ肅正ヲ期ス
- 四 軍備ヲ充實シ、以テ國防ノ完備ヲ期ス
- 五 國際正義ノ貫徹ヲ圖リ、世界資源ノ衡平ヲ期ス

三 政 策

內閣制(政黨ニ籍ヲ置カザルヲ原則トス)

- 一 內閣總理大臣
- 二 內務大臣(神社局ヲ宮内省ニ移ス)
- 三 外務大臣
- 四 大藏大臣
- 五 陸軍大臣(軍部大臣ハ現役大、中將タルコト)

六海軍大臣(同右)

七拓務大臣

八文部大臣(政黨外ノ學界ノ權威者ヲ以テ之ニ充ツ)

九産業大臣

商工局

農林局

水產局

礦產局

通信局

海運局

陸運局

空運局

十交通大臣

會計検査院

司法廳(獨立)

司法警察ハ人事、事務一切ヲ檢察院ニ屬セシム

大審院

檢察院

國策參議院(政務官、參與官ヲ廢ス)

經濟統制院

一般官吏(特ニ外交官)ノ特別任用範圍ヲ擴大ス

帝國議會

貴族院

一從來ノ多額納稅議員ヲ廢シ之ニ代ルニ地方府縣ノ代表者ヲ以テ之ニ充ツ

衆議院

一 大選舉區、比例代表採用

一 半數地方代表、半數職能代表

選舉法ノ改正

一 選舉國營、嚴罰主義、失格者ノ失權期間十年、保證金撤廢、記名投票、棄權防止ノ制裁、三回

以上ハ失權、棄權届出、候補者ハ選舉權行使セヌコト

農業

農業對策

一 米穀統制

- 一 米穀ノ投機の相場防止ヲ目的トス
- 一 蠶種ハ國家之ヲ統制ス
- 一 生絲ハ國家販賣統制ヲナス
- 一 農業移民對策確立
- 一 肥料國營(滿洲ノ豆糟及硫安大量輸入)
- 一 農業保險法制定
- 一 農業用牛馬諸車免稅
- 一 小作地國有認容政策確立
- 一 一般行政
- 一 地方行政區劃ハ二縣若ハ三縣ノ併合ヲ行フ
- 一 公營醫療機關ノ設立
- 一 負債整理法
 - 一 負債整理ハ其ノ償還ヲ長年賦トスルカ然ラザレバ債權者ノ自發的道德好意ニ待ツ
 - 一 地方教育費ニ依ル教員俸給全額負擔

地方自治制

地方自治行政區劃ハ大市町村制ニ依ル

地方府縣市町村理事者ハ政黨員タルコトヲ許サザルコト

重要産業ノ國家統制

- 一 重要商工礦業
 - 電氣、瓦斯、石炭、鑛油、鐵、鑛業、纖維工業、化學工業、交通、運輸ヲ國家統制ノ下ニ置ク
- 二 各種産業
 - 最高最低賃金法定
- 三 日滿經濟ノ統制
 - 資源、市場、勞働、産業、資本、人口、交通等ノ全面的調査ヲ遂行シ日滿經濟「ブロック」ヲ創建ス
- 四 海洋政策ノ再建、統轄機關ノ整備
 - イ 水産業 水產金融機關ノ新設、魚族ノ増殖、遠洋漁業ノ保護獎勵
 - ロ 海運業 造船、航路網ノ統制、海運業ノ保護獎勵ノ方策ヲ講ズ
- 五 勞働立法確立
- 六 職業統制 一般機械勞力
- 七 公共事業統制

八 發明 品

其ノ他一般統制

財政方針ノ確立

一 國家内外債整理、官營各種事業ヲ見テ民營ニ移ス

二 ラヂオ官營、航空事業國營方針ノ決定

三 稅制改革ノ要綱

現在ノ國民所得ヲ再吟味シテ左ノ稅制改革ヲ行フ

一 増稅ス可キモノ

イ 高級奢侈品ニ課稅ス

ロ 第二種所得稅（公債、社債、銀行預金、利子、信託利子）ノ稅率ヲ引上グ

ハ 第三種所得稅（個人所得）ノ稅率ヲ引上グ（累進的）

ニ 第三種所得稅中株式配當金ヲ從前ハ六割ヲ基準トシテ總收入ニ綜合シタルヲ全額綜合トス

ホ 相續稅ノ累進率ヲ引上グ

ヘ 資本利子稅ノ稅率ヲ引上グ

ト 山林、耕地、宅地放任稅

一 減免ス可キモノ

イ 耕作地租（田畑稅）ハ臨時應急對策トシテ全免ス

面積收入ノ關係ヲ考慮シ、擔稅力ノ多少ニ相應スル如ク比率確定

ロ 營業收益稅ノ免稅點ヲ引上グ

ハ 地方負擔ノ輕減ヲ斷行ス

家屋稅、特別地稅、戶數割、雜種稅ヲ整理減免ス

義務教育中教員俸給相當額ヲ國庫負擔トス

非常時特別會計ノ創設

滿洲ニ對スル計劃的經濟政策ヲ定メ之ガ爲ニ特別會計ヲ設ケ、一定方針ノ具體的方策ヲ講ゼネバナ

ラヌ

外交方針

一 外交官ハ皇道ノ宣傳者タラシム

二 日滿國交進展

三 亞細亞聯盟ノ確定 支那親日派支援

四 外交諸條約檢討

英、米、露、支間ノ諸關係ヲ檢討整理

五 國際軍縮會議ニ對スル根本方針ノ確立

教育ニ關スル方策

一 皇道ノ確立及普及

二 皇道ニ基ク根本的大改革

(一) 國史特ニ神代史ノ確立

(二) 神社改革竝ニ明治天皇大教宣布ノ詔勅ノ實踐

(三) 宗教改革

(四) 學校教育改革(明要教育)

(五) 風習改革

三 教育制度ト國策ノ調和

四 機會均等化及實際化教育

四 會 則

第一條 本會ハ宣言及綱領ニ掲グル事項ヲ達成スルヲ目的トス

右目的達成ノ爲ニハ主トシテ言論、文書ヲ以テシ實行方法ハ幹事會之ヲ定ム

第二條 本會ハ皇道會ト稱シ本部ヲ東京ニ、支部ヲ全國各地ニ置ク

第三條 本會ハ宣言及綱領ニ賛成スル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 本會ニ入會セントスルモノハ、會員ノ紹介ニヨリ申込書ヲ本部ニ提出スルモノトス

入會ノ諾否ハ常任幹事會之ヲ決ス

第五條 會員ハ會費年額五十錢ヲ毎年三月末日迄ニ納付スルモノトス

第六條 本部ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、總裁一名、二、副總裁二名、三、顧問若干名、四、相談役若干名、五、評議員若干名、六、幹事長一名、七、副幹事長一名、八、幹事若干名(常任幹事若干名)、九、會計監督二名、十、會計主任一名

役員ノ任期ヲ一ケ年トス

但シ再選ヲ妨ゲズ

第七條 評議員ハ會員中ヨリ選出シ、幹事ハ評議員ノ互選ニヨル

第八條 總裁及副總裁ハ評議員會ノ、顧問及相談役ハ幹事會ノ決議ニ依リ之ヲ推薦ス

第九條 毎年四月會員大會ヲ開催ス

但シ必要ニ應ジ臨時大會ヲ開催スルコトアルベシ
 綱領ノ變更、會則ノ改正、其ノ他本會ニ關スル重要事項ノ決定ハ大會ノ決議ニヨル
 前項ノ事項ト雖モ緊急ヲ要スルトキハ幹事會ノ決議ニヨリ之ヲ實施スルコトアルベシ
 但シ其ノ場合ニ於テハ次回大會ニ於テ事後承認ヲ求ムルコトヲ要ス
 第十條 會員ニシテ宣言及綱領ニ掲グル事項ニ違背スル言動アリタルモノハ幹事會ノ決議ニヨリ除名
 スルコトアルベシ

附 則

第十一條 役員ノ事務規定ハ別ニ之ヲ定ム
 第十二條 支部長ハ本部評議員ヲ兼ネルモノトス
 第十三條 支部規約ハ本會則ニ準ジ便宜作成シ本部ノ承認ヲ要スルモノトス

(附 録)

小作調停法 (大正十三年七月二十二日 法律第十八號)

第一條 小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 當事者ハ合意ヲ以テ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 第二條 當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得
 第三條 調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長又ハ郡長ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得
 第四條 前條ノ規定ニ依ル調停ノ申立アリタルトキハ市町村長又ハ郡長ハ遲滯ナク申立ニ關スル書類ヲ裁判所ニ送付シ且町村長ニ在リテハ郡長ニ、郡長ニ在リテハ町村長ニ申立アリタル旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス
 爭議ノ目的タル土地カ數郡市町村ニ亘ル場合ニ於テハ調停ノ申立ヲ受ケタル市町村長又ハ郡長ハ遲滯ナク關係市町村及郡長ニ前項ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス
 第五條 裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス但シ第八條第一項ノ規定ニ依リ事件ヲ移送スル場合ハ此ノ限ニ在

ラス

第六條 調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ

第七條 調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村長、郡長又ハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第八條 爭議ノ目的タル土地カ數箇ノ裁判所ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル

地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判

所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テ事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ遲滯ナク爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村

長及郡長ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第九條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止

ス

第十條 裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス但シ爭議ノ實情ニ鑑ミ之

ヲ開カスシテ調停ヲ爲スコトヲ得

當事者ノ申立アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十一條 裁判所事情ニ依リ適當ナル者アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス之ヲシテ勸解ヲ爲サ

シムルコトヲ得

第十二條 當事者多數ナル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ代表シテ調停ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サ

シムル爲總代ヲ選任スルコトヲ得

裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ナキ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代ノ選任ヲ命スルコトヲ得

總代ハ當事者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

第十三條 總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

總代ノ解任ハ之ヲ裁判所ニ届出ツルニ非サレハ其ノ效ナシ

第十四條 裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ノ呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ参加スルコトヲ得

裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ参加ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁

判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十七條 爭議ノ目的タル土地ノ所在地又ハ當事者ノ住所地ノ市町村長又ハ郡長ハ裁判所ニ對シ事件ノ經過ニ付陳述ヲ爲スコトヲ得

第十八條 裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前條ノ市町村長又ハ郡長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 小作官ハ期日ニ出席シテ又ハ期日外ニ於テ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ事實ノ調査ヲ小作官ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條 裁判所ニ於ケル調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

第二十二條 裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十三條 裁判所ニ對スル申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十四條 裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス
第二十五條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル措置ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 裁判所ノ調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關スル定ヲ爲ササルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費用ヲ自ラ負擔ス

第二十七條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十八條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長ノ指定ス

調停委員ハ調停ニ適當ナル者ニ就キ地方裁判所長ノ選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス但シ當事者カ合意ヲ以テ選定シタル者アルトキ又ハ地方裁判所長ノ選任シタル者ニ就キ當事者雙方カ各別ニ選定シタル者アルトキハ其ノ者ノ中ヨリ先ツ之ヲ指定スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十條 調停主任ハ爭議ノ實情ニ鑑ミ適當ト認ムル場所ニ於テ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第三十一條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第三十二條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第三十三條 調停委員會ノ評議ハ之ヲ祕密トス

第三十四條 第十一條乃至第二十六條ノ規定ハ調停委員會ノ調停手續ニ之ヲ準用ス

第三十五條 調停委員會ハ當事者、總代又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ

爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十六條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ適當ト認ムル調停條項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ調停條項ヲ定メタル場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ調書ノ正本ヲ當事者、總代アルトキハ總代ニ送付シ且當事者又ハ總代カ其ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調

停ニ同意シタルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停

ニ同意シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得期間ノ伸長ハ之ヲ相手方、總代アルトキハ

總代ニ通知スルコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ調停條項ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方、總代アルト

キハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

第三十七條 調停委員會第二條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第三十八條 調停成リタルトキ又ハ第三十六條第三項ノ規定ニ依リ調停ニ同意シタルモノト看做サレ

タルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ當事者又ハ總代ハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 裁判所ハ調停カ著シク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコト

ヲ得ス

第四十條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限リ裁判上ノ和解ト同

一ノ效力ヲ有ス

第四十一條 裁判所調停認可ノ決定ヲ總代ニ告知シタル場合ニ於テハ調停條項ヲ爭議ノ目的タル土地

ノ所在地ノ市役所又ハ町村役場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十二條 調停委員會必要アリト認ムルトキハ調停ノ經過ヲ公表スルコトヲ得

第四十三條 調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ結果ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長

及郡長ニ通知スルコトヲ要ス

第四十四條 當事者又ハ利害關係人ハ手数料ヲ納付シテ記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄

本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記録ノ

閱覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

第四十五條 調停委員及第十一條又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ勸解ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第四十六條 第四十四條ノ手数料並前條ノ旅費、日當及止宿料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 本法中郡トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳管轄區域、郡長トアルハ北海道ニ於テハ

北海道廳支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司トス

本法中町村、町村長又ハ町村役場トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村、町村長又ハ町村役場ニ準スルモノトス

第四十八條 第三十四條ノ規定ニ依ル呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五拾圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ顛末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ勅令ヲ以テ指定スル地區ニ之ヲ施行セス

小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件 (大正十三年九月二十六日勅令第二百二十八號)

小作調停法ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

小作調停法附則第二項ノ規定ニ依リ同法ヲ施行セサル地區ヲ指定スルコト左ノ如シ

沖 繩 縣

(大正十五年六月一日ヨリ長崎、福島、山形、秋田、鹿兒島ノ五縣ニ、昭和四年七月一日ヨリ宮城、岩手、青森ノ三縣ニ施行セラル)

附

錄

附 錄

目 次

第一 年次別小作爭議、調停及地主小作人組合一覽表

第二 小作爭議ニ關スル調査諸表

- 一 小作爭議年次別發生件數表
- 二 小作爭議一覽表
- 三 小作爭議月次別發生件數表
- 四 小作爭議繼續期間別件數表
- 五 小作爭議調停者別件數表
- 六 土地返還爭議一覽表
- 七 小作料減額要求歩合及同決定歩合對照表
- 八 小作爭議關係土地面積廣狹別件數表

第三 小作調停ニ關スル調査諸表

- 一 小作調停法ニ依ル調停事件各年別取扱件數表
- 二 小作官ノ法外調停事件年次別件數表
- 三 昭和八年受理小作調停事件一覽表
- 四 昭和八年受理小作調停事件受理月別表
- 五 昭和八年受理小作調停事件關係土地面積廣狹別表
- 六 昭和八年受理小作調停事件要求事項類別表
- 七 昭和八年受理小作調停事件取下內譯表
- 八 昭和八年受理小作調停事件調停回數表
- 九 昭和八年受理小作調停成立事件期間表
- 一〇 昭和八年受理小作調停成立事件調停條項類別表
- 一一 昭和八年受理小作調停成立事件ノ要求及成立內容對照表
- 一二 昭和七年受理昭
和八年へ持越小作調停事件一覽表
- 一三 昭和八年小作官ノ法外調停事件一覽表
- 一四 昭和八年小作官ノ法外調停成立事件調停條項類別表
- 一五 昭和八年小作調停事件調査表 (司法省調査)
- 一六 昭和八年小作ニ關スル民事訴訟事件調査表 (司法省調査)
- 一七 小作調停委員調査表 (司法省調査)

第四 地主小作人組合ニ關スル調査諸表

- 一 地主小作人組合一覽表
- 二 小作人組合年次別現在數表
- 三 地主組合年次別現在數表
- 四 協調組合年次別現在數表
- 五 現存小作委員會設立年次別表
- 六 現存土地會社設立年次別表
- 七 地主小作人組合聯合會一覽表

第一 年次別小作爭議、調停及地主小作人組合一覽表

昭和九年六月三十日迄ニ到達シタル報告ニ基キ作成セリ
沖繩縣ニハ小作爭議ナカリシヲ以テ掲記セザルヲ本則トス
第四、五、七ノ諸表ハ解決事件ヲ集計セリ
反別ハ町ヲ單位トセリ

第二 小作爭議ニ關スル調査諸表

- 一 昭和九年六月三十日迄ニ到達シタル報告ニ基キ作成セリ
- 二 沖繩縣ニハ小作爭議ナカリシヲ以テ掲記セザルヲ本則トス
- 三 第四、五、七ノ諸表ハ解決事件ヲ集計セリ
- 四 反別ハ町ヲ單位トセリ

町	小作	爭議	解決	未解決	備考
第一
第二
第三
第四
第五
第六
第七
第八
第九
第十
第十一
第十二
第十三
第十四
第十五
第十六
第十七
第十八
第十九
第二十
第二十一
第二十二
第二十三
第二十四
第二十五
第二十六
第二十七
第二十八
第二十九
第三十
第三十一
第三十二
第三十三
第三十四
第三十五
第三十六
第三十七
第三十八
第三十九
第四十
第四十一
第四十二
第四十三
第四十四
第四十五
第四十六
第四十七
第四十八
第四十九
第五十
第五十一
第五十二
第五十三
第五十四
第五十五
第五十六
第五十七
第五十八
第五十九
第六十
第六十一
第六十二
第六十三
第六十四
第六十五
第六十六
第六十七
第六十八
第六十九
第七十
第七十一
第七十二
第七十三
第七十四
第七十五
第七十六
第七十七
第七十八
第七十九
第八十
第八十一
第八十二
第八十三
第八十四
第八十五
第八十六
第八十七
第八十八
第八十九
第九十
第九十一
第九十二
第九十三
第九十四
第九十五
第九十六
第九十七
第九十八
第九十九
第一百

四 小作争議懸断間限特例表

道府縣名	争議件数	懸断間限特例適用件数	割合
北海道	12	12	100%
青森県	1	1	100%
岩手県	1	1	100%
秋田県	1	1	100%
山形県	1	1	100%
福島県	1	1	100%
茨城県	1	1	100%
栃木県	1	1	100%
群馬県	1	1	100%
埼玉県	1	1	100%
千葉県	1	1	100%
東京都	1	1	100%
神奈川県	1	1	100%
新潟県	1	1	100%
富山県	1	1	100%
石川県	1	1	100%
福井県	1	1	100%
岐阜県	1	1	100%
静岡県	1	1	100%
愛知県	1	1	100%
岐阜県	1	1	100%
京都府	1	1	100%
大阪府	1	1	100%
兵庫県	1	1	100%
奈良県	1	1	100%
和歌山県	1	1	100%
徳島県	1	1	100%
香川県	1	1	100%
高松県	1	1	100%
愛媛県	1	1	100%
高知県	1	1	100%
福岡県	1	1	100%
佐賀県	1	1	100%
熊本県	1	1	100%
大分県	1	1	100%
鹿児島県	1	1	100%
沖縄県	1	1	100%

五 小作争議調停者別件数表

道府縣名	調停者別件数		合計
	調停者	調停者	
北海道	12	12	24
青森県	1	1	2
岩手県	1	1	2
秋田県	1	1	2
山形県	1	1	2
福島県	1	1	2
茨城県	1	1	2
栃木県	1	1	2
群馬県	1	1	2
埼玉県	1	1	2
千葉県	1	1	2
東京都	1	1	2
神奈川県	1	1	2
新潟県	1	1	2
富山県	1	1	2
石川県	1	1	2
福井県	1	1	2
岐阜県	1	1	2
静岡県	1	1	2
愛知県	1	1	2
岐阜県	1	1	2
京都府	1	1	2
大阪府	1	1	2
兵庫県	1	1	2
奈良県	1	1	2
和歌山県	1	1	2
徳島県	1	1	2
香川県	1	1	2
高松県	1	1	2
愛媛県	1	1	2
高知県	1	1	2
福岡県	1	1	2
佐賀県	1	1	2
熊本県	1	1	2
大分県	1	1	2
鹿児島県	1	1	2
沖縄県	1	1	2

備考 一本表ハ解決セル事件ニ付調査セリ
 二 一事件ノ解決ニ二種以上ノ調停者干與セルモノハ「調停者別件数欄」ニ於テハ其ノ數ニ應ジ重複計上セリ

一 小作調停法ニ依ル調停事件各年別取扱件數表 (其ノ一)

計	名 縣 府 道										受 理 別 件 數	大 正 十 三 年	
	鹿 兒 島	宮 崎	大 分	熊 本	長 崎	佐 賀	福 岡	香 川	愛 媛	高 松			德 島
三												數 件 別 理 受	二 件
二七												數 件 位 單 議 爭	二 件
二四												越 繰 リ ヲ 年 前	一 件
一八六												理 受 年 當	六 件
一八〇												計	七 件
二〇												越 繰 リ ヲ 年 前	一 件
六四												理 受 年 當	六 件
六四												計	七 件
三九												越 繰 リ ヲ 年 前	一 件
二六〇												理 受 年 當	九 件
二九												計	九 件
二八												越 繰 リ ヲ 年 前	一 件
九四												理 受 年 當	九 件
一〇七												計	九 件
三三												越 繰 リ ヲ 年 前	一 件
三、六三												理 受 年 當	六 件
四、〇一〇												計	七 件
一、五二												越 繰 リ ヲ 年 前	一 件
一、一五												理 受 年 當	六 件
一、七四												計	七 件

計	名 縣 府 道										昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年													
	鹿 兒 島	宮 崎	大 分	熊 本	長 崎	香 川	高 知	愛 媛	靜 岡	岐 伊 呂				長 門	石 門	富 山	新 潟	東 海	千 葉	埼 島	群 馬	茨 城	福 島	山 形	秋 田	岩 手
六六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二九三	六	九	六	二	五	三	四	五	二	七	〇	三	六	七	五	八	六	六	五	六	七	六	五	六	七	六
三、六八	二	五	九	六	三	六	四	五	三	七	九	六	七	七	九	六	六	六	五	六	五	六	五	六	七	六
三八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一、六六	一	四	七	一	五	二	九	三	九	〇	七	七	九	七	三	六	七	六	五	六	七	六	五	六	七	六
二、〇〇	三	七	一	五	三	五	四	三	五	三	七	九	六	九	九	七	六	六	五	六	五	六	五	六	七	六
四、六	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三、六七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四、〇三	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三、一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一、五三	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一、九〇	三	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五、六	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二、八六	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三、四〇	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三、一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一、九〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

一 小作調停法ニ依ル調停事件各年別取扱件數表 (其ノ二)

小作調停法ニ依ル調停事件各年別取扱件數表 (其ノ二)

年	受 理 別 件 數	争 議 單 位 件 數
大正十三年
大正十四年
大正十五年
昭和元年
昭和二年
昭和三年
昭和四年
昭和五年

小作調停法ニ依ル調停事件各年別取扱件数表 (其ノ二)

年	受理別件数		争議單位件数	
	越線リヨ年前	理受年當	計	越線リヨ年前
昭和六年
昭和七年
昭和八年

一 小作調停法ニ依ル調停事件各年別取扱件数表 (其ノ三)

道	府	縣	名	昭和六年		昭和七年		昭和八年	
				受理別件数	争議單位件数	受理別件数	争議單位件数	受理別件数	争議單位件数
北	青	岩	秋
山	福	茨	群
千	東	新	神
富	石	山	長
岐	解	愛	滋
大	京	兵	和
鳥	島	廣	山
德	香	愛	福
佐	長	熊	大
鹿	宮	兒	備
計	計	計	計

備考
 小作調停法ハ大正十三年十二月一日ヨリ長崎、宮城、福島、岩手、青森、山形、秋田、鹿兒島ヲ除ク一道三府三十四縣ニ大正十五年六月一日ヨリ長崎、福島、秋田、山形、鹿兒島ノ五縣ニ昭和四年七月一日ヨリ青森、岩手、宮城ノ三縣ニ施行セラレ現
 在未施行地ハ沖繩一縣ナリ

三 昭和八年受理小作調停事件一覽表

道 府 縣 名	受 理 別	總 件 數	爭 議		單 位 件 數	內 容	容 器	計	未 濟	關 係 人	
			爭 議							關 係 人	
			申 立 者 別 件 數	合 雙						當 事 者 數	保 關 利 害 人 數
北海	秋宮岩青	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
山形	田城手森道	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
福山	都橋美福山	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
山形	馬木城島形	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
千葉	海川京葉玉	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
富山	新神東千埜	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
石川	野梨井山川	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
富山	長山福石富	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
岐阜	滋三愛靜岐	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
岐阜	賀重印岡卓	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
京都	山農庫野都	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
和歌山	和奈兵大京	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
鳥取	山口山根取	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
岡山	岡知媛川島	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
香取	福高愛香德	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
佐賀	宮大熊長佐	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
鹿兒島	崎分本崎賀	5,200	1,100	4,100	1	1	1	1	1	1	1
計		4,100	1,100	3,000	1	1	1	1	1	1	1
平均		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

備考 一、「申立者別件數」欄中「双方」トアルハ同一爭議ニ付地主、小作人ノ双方ヨリ調停ノ申立ヲナシタルモノナリ
二、「利害關係人」トアルハ調停ノ受理後利害關係アリトシテ調停ニ參加シタルモノナリ

地方裁判所	種別		地主兼小作	地主兼自作	其ノ他	計
	地	主				
合	銅旭函札 青秋盛山福 仙宮鹿熊大 福佐長松松 鳥岡山廣富 金福岐安名 高高徳和大 奈神大京新 長甲静前宇 水千浦横東	兒 濃古 歌 都				
計	路川館幌 森田岡形島 臺崎島本分 岡賀崎山江 取山口島山 澤井阜津屋 知松島山津 良戸阪都湯 野府岡橋宮 戸葉和濱京					
主	1,261	1,261				1,261
自作	1,261	1,261				1,261
小作	1,261	1,261				1,261
自作兼小作	1,261	1,261				1,261
地主兼小作	1,261	1,261				1,261
地主兼自作	1,261	1,261				1,261
其ノ他	1,261	1,261				1,261
計	1,261	1,261				1,261

一七 小作調停委員調査表 司法省調査 (昭和八年十月一日現在)

一六 租界入非小作二關入外事務局事務調査表 (租界武庫三民附列)

種別	地主兼小作	地主兼自作	其ノ他	計
小作	1,261	1,261		1,261
自作	1,261	1,261		1,261
自作兼小作	1,261	1,261		1,261
地主兼小作	1,261	1,261		1,261
地主兼自作	1,261	1,261		1,261
其ノ他	1,261	1,261		1,261
計	1,261	1,261		1,261

欠

一 縣主小計人聯合一覽表

(昭和八年末現在)

縣	縣主聯合會		縣聯合會		縣聯合會	
	聯合會	聯合員	聯合會	聯合員	聯合會	聯合員
青森	(株)青森青森	青森青森	青森青森	青森青森	青森青森	青森青森
岩手	(株)岩手岩手	岩手岩手	岩手岩手	岩手岩手	岩手岩手	岩手岩手
秋田	(株)秋田秋田	秋田秋田	秋田秋田	秋田秋田	秋田秋田	秋田秋田
山形	(株)山形山形	山形山形	山形山形	山形山形	山形山形	山形山形
福島	(株)福島福島	福島福島	福島福島	福島福島	福島福島	福島福島
茨城	(株)茨城茨城	茨城茨城	茨城茨城	茨城茨城	茨城茨城	茨城茨城
栃木	(株)栃木栃木	栃木栃木	栃木栃木	栃木栃木	栃木栃木	栃木栃木
群馬	(株)群馬群馬	群馬群馬	群馬群馬	群馬群馬	群馬群馬	群馬群馬
千葉	(株)千葉千葉	千葉千葉	千葉千葉	千葉千葉	千葉千葉	千葉千葉
東京	(株)東京東京	東京東京	東京東京	東京東京	東京東京	東京東京
神奈川	(株)神奈川神奈川	神奈川神奈川	神奈川神奈川	神奈川神奈川	神奈川神奈川	神奈川神奈川
埼玉	(株)埼玉埼玉	埼玉埼玉	埼玉埼玉	埼玉埼玉	埼玉埼玉	埼玉埼玉
茨城	(株)茨城茨城	茨城茨城	茨城茨城	茨城茨城	茨城茨城	茨城茨城
群馬	(株)群馬群馬	群馬群馬	群馬群馬	群馬群馬	群馬群馬	群馬群馬
栃木	(株)栃木栃木	栃木栃木	栃木栃木	栃木栃木	栃木栃木	栃木栃木
山形	(株)山形山形	山形山形	山形山形	山形山形	山形山形	山形山形
秋田	(株)秋田秋田	秋田秋田	秋田秋田	秋田秋田	秋田秋田	秋田秋田
岩手	(株)岩手岩手	岩手岩手	岩手岩手	岩手岩手	岩手岩手	岩手岩手
青森	(株)青森青森	青森青森	青森青森	青森青森	青森青森	青森青森

欠

協調組三地主組合年次別現在數表		縣道 名府
一	本年ニハ土賦會場ニ含ム	末年十正大
二	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年一十同
三	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年二十同
四	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年三十同
五	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年四十同
六	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年元和昭
七	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年二同
八	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年三同
九	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年四同
十	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年五同
十一	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年六同
十二	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年七同
十三	十二員末取消ノ場合ニ付翌年一月十日迄ニ既納シタル耕作費ニ基キ農情ノ及ビテハ七	末年八同

三 地主組合年次別現在數表

縣 道 名 府	北 海 道	青 島 省	岩 手 縣	秋 田 縣	山 形 縣	福 岡 縣	群 馬 縣	千 葉 縣	東 京 府	神 奈 川 縣	石 川 縣	富 山 縣	長 野 縣	靜 岡 縣	愛 知 縣	滋 賀 縣	大 阪 府	京 都 府	和 歌 山 縣	鳥 取 縣	島 根 縣	廣 島 縣	山 口 縣	香 川 縣	愛 媛 縣	高 知 縣	福 岡 縣	佐 賀 縣	長 門 縣	大 分 縣	宮 崎 縣	鹿 兒 島 縣	沖 繩 縣	計
末年十正大	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年一十同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年二十同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年三十同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年四十同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年元和昭	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年二同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年三同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年四同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年五同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年六同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年七同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116
末年八同	1571	4711	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116	1116

備考
 一 大正十年ハ内務省警保局、大正十一年乃至大正十三年ハ内務省社會局、大正十四年以降ハ農林省農務局ノ調査ナリ
 二 大正十年末トアルハ大正十一年一月二十日、大正十一年末トアルハ同年十二月十六日、大正十二年末トアルハ同年十二月十六日、大正十三年末トアルハ同年十二月二十日ニ集計シタルモノニシテ大正十四年以降年末トアルハ各年十二月末現在ノ組合ニ付翌年一月十日迄ニ到達シタル報告書ニ基キ集計シタルモノナリ
 三 本表ニハ土地會社ヲ含ム

三 賦主聯合年次別現在數表

年次	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	千代田	神奈川	東京	大阪	兵庫	京都	和歌山	奈良	徳島	香川	高松	愛媛	高知	徳島	香川	高松	愛媛	高知
大正十年末
大正十一年末
大正十二年末
大正十三年末
大正十四年末
昭和元年
昭和二年
昭和三年
昭和四年
昭和五年
昭和六年
昭和七年
昭和八年
昭和九年

四 協調組合年次別現在數表

道府縣名	十年末正	十一年末	十二年末	十三年末	十四年末	元昭和	二年末	三年末	四年末	五年末	六月末	六年末	七月末	八年末	九年末
	北海道
青森県
岩手県
宮城県
秋田県
山形県
福島県
茨城県
栃木県
群馬県
千代田県
神奈川
東京都
大阪府
兵庫県
京都府
和歌山
奈良県
徳島県
香川県
高松県
愛媛県
高知県
計

備考 一 大正十年ハ内務省警保局、大正十一年乃至大正十三年ハ内務省社會局、大正十四年以降ハ農林省農務局ノ調査ナリ
 二 大正十年末トアルハ同十一年一月二十日、大正十一年末トアルハ同十一年十一月十六日、大正十二年末トアルハ同十二年十二月十六日、大正十三年末トアルハ同十三年十二月二十日ニ集計シタルモノニシテ大正十四年以降年末又ハ六月末トアルハ各年十二月末又ハ六月末現在ノ組合ニ付翌年一月十日又ハ七月十日迄ニ到達シタル報告書ニ基キ集計シタルモノナリ

備考 本表ハ小作關係事業ヲ主タル目的トスルモノノミニ付調査シタルモノナリ

計	沖鹿	宮大熊長佐	福高愛香德	山廣岡島鳥	和奈兵大京	滋三愛靜岐	長山福石富	新神東千埼	群栃茨福山	秋宮岩青北	縣 道
	兒 繩島	崎分本崎賀	岡知媛川島	口島山根取	山良庫阪都	賀重知岡阜	野梨井川山	湯川京葉玉	馬木城島形	田城手森道	名 府
10K	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	社會
											數
											前以年十二治明
											年一十二治明自
											年十四同至
											年一十四治明自
											年元正大至
											年二正大自
											年六同至
											年七正大
											年八同
											年九同
											年十同
											年一十同
											年二十同
											年三十同
											年四十同
											年元昭和
											年二同
											年三同
											年四同
											年五同
											年六同
											年七同
											年八同
											明 不

六 現存土地會社設立年次別表 (昭和八年末現在)

五 現存小作委員會設立年次別表 (昭和八年末現在)

縣 道	山 縣	山 縣
名 府	名 府	名 府
社會	社會	社會
數	數	數
前以年十二治明	前以年十二治明	前以年十二治明
年一十二治明自	年一十二治明自	年一十二治明自
年十四同至	年十四同至	年十四同至
年一十四治明自	年一十四治明自	年一十四治明自
年元正大至	年元正大至	年元正大至
年二正大自	年二正大自	年二正大自
年六同至	年六同至	年六同至
年七正大	年七正大	年七正大
年八同	年八同	年八同
年九同	年九同	年九同
年十同	年十同	年十同
年一十同	年一十同	年一十同
年二十同	年二十同	年二十同
年三十同	年三十同	年三十同
年四十同	年四十同	年四十同
年元昭和	年元昭和	年元昭和
年二同	年二同	年二同
年三同	年三同	年三同
年四同	年四同	年四同
年五同	年五同	年五同
年六同	年六同	年六同
年七同	年七同	年七同
年八同	年八同	年八同
明 不	明 不	明 不

14.4
729

終